

平成 30 年度 日本ミュージアム・マネージメント学会 事業計画書

【1】会議の開催

名称	内 容	実 施 時 期
理事会 (年 4 回程度を予定)	総会議事の確認、大会運営等について	平成 30 年 5 月 13 日
	総会議事の確認、大会運営について	平成 30 年 6 月 2 日(総会、大会開催日)
	学会活動を推進するにあたって、検討を要する事項について	平成 30 年 10 月 28 日、 平成 31 年 2 月 3 日
常任理事会 (隔月に開催予定)	学会活動の振興、活性化について課題の検討、ソリューションの促進	平成 30 年 7 月、9 月、11 月、 平成 31 年 1 月、3 月
研究紀要 編集委員会	研究紀要の査読・審査・編集に関することについて	平成 30 年 7 月、12 月、平成 31 年 2 月
大会実行委員会	大会の企画及び実行、準備について	平成 30 年 5 月 19 日、10 月、 平成 31 年 2 月
学会賞選考委員会	学会賞選考に関する事項について	平成 31 年 3 月
25 周年記念事業 についての会議	25 年記念事業の内容についての検討	平成 30 年 5 月 13 日 理事会日程にあわせて開催予定

【2】大会、総会の開催

名称	内 容	実 施 時 期
第 23 回総会	事業報告、会計決算報告等	平成 30 年 6 月 2 日
第 23 回大会	特別講演、指定討論、会員研究発表、 ポスターセッション	平成 30 年 6 月 2 日～3 日

【3】研究部会の開催

研究部会	テ ー マ ・ 内 容 等
ミッション・ マネージメント 研究部会	<p>■テーマ：「多様な人々とミュージアム」</p> <p>当学会は 2018 年度から 2020 年度の 3 年間は「人々とミュージアム」をテーマとし、社会を構成する人々の多様性に焦点を当て、ミュージアムを取り巻く人々とミュージアムとの関係性に関する研究活動と情報発信を展開していきます。</p> <p>当研究部会では、多様なステークホルダーを意識し、人々との関係性の視点からミュージアムのマネージメントについて考察していきます。</p> <p>■研究見学会の開催</p> <p>◎研究テーマ：「多様な人々と築くミュージアム活動」(仮)</p> <p>◎日 時：未定</p> <p>◎場 所：滋賀県東近江市</p> <p>◎内 容：東近江市は、平成 17 年と 18 年の市町合併により、滋賀県東部に位置する 1 市 6 町がひとつになり、鈴鹿山脈から琵琶湖までを包括する自然・歴史環境の豊かな広域自治体です。東近江市博物館グループは、近江商人博物館・能登川博物館・</p>

	<p>西堀榮三郎記念探検の殿堂、野口謙蔵記念館、ガリ版伝承館からなっています。これまで学芸員が少ないにもかかわらず市民有志、市外在住の有志、団体、学校、企業などをパートナーとして、子どもや大人を対象にしたさまざまな博物館活動を展開しています。</p> <p>今回の研究見学会では、地方博物館マネジメントの現状を知り、多様な人々と築くミュージアム活動について考察します。</p>
<p>コミュニケーション・マネジメント 研究部会</p>	<p>■テーマ： コミュニケーション・マネジメント研究部会では博物館の展示を考える一年とする。昨今、3D立体造形技術やプロジェクションマッピング等の手法を用いた新たな展示が展開されている。反面、開館数十年を経過したことによる施設の老朽化をはじめ、展示手法の陳腐化、新たな学説に追従していない展示内容、さらには、時代にそぐわない視聴覚機器による情報提供能力の貧弱化等々、博物館共通の課題も現出している。これらについて実態共有を図った上で、関係者間における議論の場とする。</p> <p>■第1回研究会 ◎名 称：さあ！博物館の展示について議論しよう 今、必要なのは先端技法か原点回帰か、それとも・・・・・・・・</p> <p>◎開催日時：平成30年12月頃 ◎開催場所：科学技術館 ◎概 要：各博物館にとって展示事業は館運営の中で非常に高いウエイトを占めている。館のミッションや研究員の専門分野等により多岐に渡る展示事業が具現化されている反面、事業経費の削減、研究員の減少、定年等による世代交代、施設や機器の老朽化等々、事業展開に際しての課題も多い。多くの館が開館以来、数十年を経ている傾向にある中で、開設当時のミッションを踏襲するのか、または、新たなニーズや展示手法の革新等に対応した事業展開を行うのか等、展示に関わる様々な課題が現出している実態がある。平成30年度、本研究会では博物館の表舞台とも言える展示について議論する場とする。</p> <p>■第2回研究会 ◎施設見学会：(予定) ◎日 時：平成31年2月頃 ◎概 要：第1回研究会で議論したことに関して実際の博物館の展示事業について施設見学を行い、参加者間で議論する場とする。</p>
<p>コレクション・マネジメント 研究部会</p>	<p>■コレクション研究会テーマ 「アーカイブからミュージアムを捉え返す」 これまで本研究部会では、社史関係資料・教育資料・映像アーカイブからミュージアムを捉え返すという観点から研究会を開催してきた。これらの資料は既存の博物館や図書館等の資料保存機関では正面から取り扱い得なかったいわば「コレクションのエアポケット」的な存在である。こうした「コレクションのエアポケット」的アーカイブがミュージアムの発展にどのように寄与し得るのか、という視点の下に研究会を開催することとしたい。</p> <p>■地域文化研究会テーマ 「観光と博物館」 今年度はJMMA京都大会、来年度はICOM 京都大会が行われ、いずれの京都大会でも「観光と博物館」がテーマとなる。そこで本部会でもそれをテーマとした研究会を実施することとしたい。特にこれからの時代を背負う若い世代の視点からみた地域に重点を置く。</p> <p>■コレクション研究会の開催 ◎テーマ：新発見にかかる大礼記念国産振興東京博覧会の記録映像アーカイブの活用(仮題) ◎開催日時：平成30年秋～冬頃を案として調整中</p>

	<p>◎開催場所:東京近辺を中心に調整中</p> <p>◎講演・報告者:調整中</p> <p>◎概要:大礼記念国産振興東京博覧会とは昭和天皇の即位を記念して1928(昭和3)年に開催された。当時の時勢を反映し、日本の殖民地に関する展示ブースや軍事関係の展示が設けられる等、博覧会史上でも注目されるイベントである。近年、この博覧会の記録映像フィルムが山梨県内の一般民家より発見され、大きな注目を集めた。フィルムの多くは良好な状態で保管され、博覧会の様子はもとより、著名人物、展示技術、風俗・習慣などの姿を鮮明に現代に伝える貴重な資料である。そこで本研究会は、当該フィルムの紹介をおし、今後、どのような活用法が想定されるかを検証することを目的として開催することとしたい。</p> <p>■地域文化研究会の開催</p> <p>◎テーマ:観光者から見るミュージアムとは</p> <p>◎内容:大学教員や学芸員などの専門家が思考する観光というコンテキストにおけるミュージアムではなく、観光者が思考するミュージアムの魅力を抽出してみたいという観点から学生(博物館学の知識はない)の発表を聞いていただくことに重きを置く。また、見学に連れていくと学生が「面白い!」という安中新田会所跡旧植田家住宅の見学の他、ハルカス美術館(希望者のみ)の見学も内容とする。</p> <p>◎開催場所:旧植田家住宅、ハルカス美術館、阪南大学</p>
--	--

【4】支部会の開催

支部会	テーマ・内容等
北海道支部会	<p>■活動テーマ:持続可能なミュージアムの連携 ～地域との日常的な関わりをもち、地域の人々の暮らしぶりを体現するミュージアム。地域間ミュージアムの連携がもたらす地域の活性化～</p> <p>■ミュージアム・マネジメント研修会の企画、実施</p> <p>◎実施期間:平成30年9月5日(水)、6日(木)の2日間</p> <p>◎共催:北海道博物館協会、同左道央地区博物館等連絡協議会</p> <p>◎後援:北海道教育委員会、倶知安町教育委員会(予定)</p> <p>◎テーマ:持続可能なミュージアムの連携～後志ミュージアムロードの取組み(仮題)</p> <p>◎構成:9月5日(水) 基調講演 講師:渡邊 創氏(株式会社乃村工藝社) 連携するミュージアムの事例報告 報告者:柴 勤氏(小川原脩記念美術館館長) CISEネット(予定)</p> <p>ワークショップ 情報交換会 9月6日(木) 後志ミュージアムロード見学 ー小川原脩記念美術館(倶知安町)、有島記念館(ニセコ町)等</p> <p>◎備考:主会場(基調講演、事例報告、ワークショップ)は倶知安町公民館</p>
東北支部会	<p>■活動テーマ: 東日本大震災関連から7年を経て、各地で具体化されはじめたメモリアル関連の取り組みの事例調査、およびミュージアムの観点からの検討</p> <p>■仙台を拠点とする『災害と展示の研究会』の活動に全面的に参加し、下記の活動を進める。 ＜『災害と展示の研究会』の趣旨＞ 東日本大震災を契機に被災地域のミュージアム関係者は「大規模災害について、ミュージア</p>

	<p>ムは何をどのように伝えるべきか」という職業的課題を共有することとなった。本研究会は、この課題意識をふまえて、災害体験の語りや映像記録の公開、被災した文化財・生活財の展覧、震災遺構の活用やメモリアル施設の造営など、“災害の表象”を市民の利用に供する多様な営みを「(災害)展示」という観点から横断的に捉え、地域や市民にとって有意義な災害伝承のあり方について下記のような調査・研究活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害と展示に関する調査研究及び資料収集 ・勉強会、研究発表会、講演会等の開催 ・災害に関する「展示」事業への提言 ・ミュージアム関連諸団体との連携 ・研究成果の公開・発信
<p>関東支部会</p>	<p>■活動テーマ：対話力、発信力、連携力 今年度も、昨年度に引き続き、人々との接点、館同士の接点等において、ミュージアム側の「力」を高めていくためのノウハウの習得に努めます。</p> <p>■第1回：第14回 エデュケーター研究会 「対話型鑑賞で外せないこと、期待できること」 ◎講 師：京都造形大学アートプロデュース学科 学科長 伊達隆洋氏 ◎開催時期：平成30年秋 ◎開催場所：すみだ北斎美術館(予定)*座学と実践ができるプログラムを検討中です。</p> <p>■第2回：指定管理者制度を考える 「民間企業ならではのミュージアム運営、魅力向上のキーワード(仮)」 近年、ミュージアムの指定管理者として、様々な民間企業が名乗りを上げ、受託しています。また、ミュージアムの指定管理者が再公募において変わるケースも散見されます。このことは、行政サイドが、ミュージアムのマネジメントに対して、民間企業が有する新たな知見やノウハウを期待している現われともいえます。 そこで、ミュージアムの指定管理者として運営を担われている民間企業の事業者の皆様にお集まりいただき、受託施設のご紹介とともに、業務引継ぎなどの点でのご苦労や、ミュージアムの魅力の向上にとって必要と考える「キーワード」についてお聞きすることを予定しています。 ◎ゲストスピーカー：未定 ◎開催時期：2019年2月頃(予定) ◎開催場所：三菱総合研究所会議室(溜池山王：予定)</p>
<p>中部支部会</p>	<p>■活動テーマ：前年度からの中部支部活性化を継続する</p> <p>■前年度開催の研究会を継続させて支部内および関係者との交流を促進させる ◎テーマ：地域ミュージアムの独自性を活かす ◎日 程：2018年9月から12月 ◎参加者：中部支部会員と関係者約30名</p> <p>■中部支部エリア内での他団体との交流を継続させるとともに協力体制を築く</p>
<p>近畿支部会</p>	<p>■活動テーマ： 今年度は京都においてJMMAの大会が行われ、次年度にはICOM京都大会が行われる。近畿支部としては博物館界における、このような大きな大会を様々な形で盛り上げられるよう研究会や見学会を開催していく。テーマは昨年から引き続き「観光と博物館」とする。</p> <p>■国立民族学博物館 特別展「太陽の塔からみんなくへー70年万博収集資料」見学会 ◎日 程：平成30年5月21日(月) 13:00～17:00 ◎場 所：国立民族学博物館 特別展示館・第7セミナー室 ◎内 容：13:00～15:00 特別展見学(自由見学) 15:00～15:30 休憩 15:30～17:00 概要説明・ディスカッション(本館2階セミナー室、特別展実行委員長</p>

	<p>の野林厚志教授のお話を伺い、その後ディスカッションを行う)</p> <p>17:00 解散</p> <p>◎定員:30名</p> <p>■宇治のまち歩きと研究会 ■八尾市立しおんじやま古墳学習館とセスナ機から眺める百舌鳥・古市古墳群見学会</p> <p>上記以外にもJMMAの部会や支部、他学会との共催で実施計画中であるが、現状では詳細未定。</p>
<p>中・四国支部会</p>	<p>■見学会・研究会の開催</p> <p>◎日 程:平成30年10月27日(土)・28日(日)</p> <p>◎場 所:(研究会)岡山理科大学(学内会場は調整中)</p> <p>◎開催テーマ:「大学博物館にできること」(仮称)</p> <p>◎研究会概要:大学丸ごと博物館など、大学全体をミュージアムとしてとらえるフィールドミュージアム的な動き、また、大学の地域連携としての博物館活動など、大学博物館ならではのこれからの社会的な役割や責任などについて、各大学の活動を紹介しながら参加者と意見交換します。</p> <p>◎内 容:27日 プレイメントとして前日に岡山市内の経営・運営上参考になる館(候補あり、交渉中)を訪問し、ケーススタディを実施する。」</p> <p>28日 10:00～15:30 支部研究会 15:30～17:00 岡山理科大学自然史博物館見学(30年3月に新規開館)</p> <p>◎発表者案: 石垣忍氏(岡山理科大学) 清水則雄氏(広島大学) 高田浩二氏(福山大学)司会進行役、コーディネーターも調整。 そのほか、会員以外の支部内の大学博物館等へも調整中。</p>
<p>九州支部会</p>	<p>■活動テーマ:「博物館と医療福祉のよりよい関係づくりの構築」</p> <p>博物館が高齢者の居場所と出番を創出していくためには、現職学芸員や学芸員有資格者(休眠学芸員)、博物館関係者はこれまで以上に保存管理、展示教育等のスキルアップはもちろんのこと、特に「記憶」に残る博物館資料を活用した各種療法を学ぶ事が重要になってくる。このため本事業では、美術館で芸術療法、歴史民俗博物館で回想法、動物園や水族館でアニマルセラピー、植物園で園芸療法などを医療福祉関係者の協力を得ながら学ぶ機会を提供し、それぞれの博物館で介護予防や生活支援等の新たな博物館価値を創造し得る人材の育成を行う。また、現在博物館に従事していない学芸員(いわゆる休眠学芸員)についても育成対象とし、博物館が地域課題を解決する場として社会的な役割を獲得するために、広く啓発を図りたい。</p> <p>■博物館マネージメント人材育成研修会(ミュージアム・テクニカルコース)の実施 「展示制作」「展示グラフィック」「照明技術」などをテーマに研修会を九州・沖縄8県10回で実施</p> <p>■博物館マネージメント人材育成研修会(ミュージアム・セラピーコース)の実施 「美術館と芸術療法」「博物館と回想法」「植物園と園芸療法」などをテーマに研修会を福岡県内6箇所で開催</p> <p>■米国・英国博物館関係者を招聘した国際シンポジウムの実施 以上の活動は、文化庁平成30年度「大学を活用した文化芸術推進事業」と連動して実施する予定です。</p>

【5】研究紀要および会報等の発行

事項	内容	実施時期
研究紀要発行	会員の研究成果の発表	平成 31 年 3 月
会報発行	会員の研究及び実践活動の成果、ミュージアムの新しい動向、大会、研究部会・支部会の活動状況、などを掲載した会報を発行する	平成 30 年 9 月、12 月、平成 31 年 3 月(年 3 回発行)

【6】広報普及活動

事項	内容	実施時期
入会案内及び広報活動	学会のPR活動、研究部会・支部会の案内、新会員の勧誘等を推進する	随時

【7】会員交流事業

事項	内容	実施時期
ホームページ	ホームページ運営、メールインフォメーション対応	随時

【8】25 周年事業

25 周年事業	①25 周年将来構想研究部会②25 周年記念広報部会③25 周年アーカイブ部会④25 周年記念大会運営部会の4つの実行委員会を設置し、委員会ごとに事業を推進する	随時
---------	--	----

【9】学会賞の選考・授与および大堀哲賞の創設

事項	内容	実施時期
学会賞の選考・授与	ミュージアム・マネジメント分野で多大な功績、成果をもたらした会員を委員会で選考し、顕彰	選考の結果今年度は該当者なし(詳細は別紙参照)
大堀哲賞の創設・授与	学会員に限らず、広くミュージアム界、ミュージアム・マネジメント関連領域に貢献した人、組織、団体、ボランティア、外国人研究者、漫画家、小説家等、JMMAに貢献した人(活動、社会的貢献等)や入会 10 年以内の学会員を対象とした奨励賞の創設。委員会で選考し、顕彰	